



ラオスで埼玉県の授業を開催

「埼玉とラオスの子ども達が友達になる一連イベント」

川口市でラオスを知ってもらう講座を開催し、そこでアクセサリーを作って、それをラオスの小学生にプレゼントしました。ラオスでは埼玉を知ってもらう講座を開催。埼玉の魅力にラオスの小学生は大歓声でした。

3月26日(日)

川口市でラオスの子ども大学を開催

CHANG子ども地球大学の春休み特別教室を川口市民パートナーステーションで開催、小学校1年生から5年生まで30人が集まってくれました。この日のお話は「ラオス」。ほとんどの子が初めて聞く国の名前です。

「埼玉県には結構ラオスの人がいるんですよ。ただ顔が日本人に似てる分らないかもしれないね。森林が多い地形も日本と似ています」と説明すると少し親近感を持ってくれたようです。場所、国旗、気温、人口、通貨、言語などを覚え、小学校のお話しへ。新学期が9月とか、5年生までしかないとか、日本との違いに驚いていました。



ラオスに届けるアクセサリー作り

第二部では親子でアクセサリーを作りました。二つ作って一つは自分のもので、もう一つはラオスの子ども達へのプレゼント。私が4月に行つて実際にラオスの子ども達に渡してきました。

崩壊寸前だった小学校を建て直し新たに幼稚園も併設。

アクセサリーをプレゼントするのはビエンチャンにあるドンナコン小学校。ここはコロナの直前に私たちが立て直した学校です。当時は老朽化で崩壊寸前、「危険な学校には通えない」と、生徒が次々に転校してしまっている状態でした。



私たちが立て直したドンナコン小学校

更に「この地域には幼稚園がないのも村全体の悩みです」とのことでした。日本も同じですが、幼稚園がなければ子どもを預けて働きに出ることができず、それも貧困の原因の一つです。こうした事情を考慮し小学校の立て直しと幼稚園の建設を行ったのです。

アクセサリーをプレゼント

ラオスの子ども達に「日本の小学生がアクセサリーを作ってくれたよ。友達になろう」と作った本人の写真を見せながら一つ一つ渡しました。ラオスの子どもは「えー」と照れながらもとても嬉しそうでした。



お揃いのアクセサリーで友達に

この時の写真を日本の子ども達の親に送ったのですが、「ラオスにすごく興味を持ってます」「自分でラオスのお祭りを検索して調べてるのに驚いた」「CHANGのインスタを見て友達が見てる！と喜んでます」等たくさん感想をいただきました。ラオスにおそろいのアクセサリーを持つ友達が多かったことが、とても嬉しかったです。



「この子が作ってくれたんだよ」と説明

4月5日（水） ラオスで埼玉県の授業を開催

ラオスで初めて埼玉県の授業を開催しました。大きなテレビを付けただけで子ども達は「何？何見せてくれるの？」とワクワクしています。この日は50人ほどの高学年で教室は一杯です。私「みんな私がどこから来てるかは知ってるよね？」

みんな「ニブン、ニブン（日本）」私「日本の中の埼玉って知ってる？」全員「・・・」



埼玉の授業は生徒でいっぱい

まずは埼玉県のPRビデオを視聴。本庄祭りの大きなお神輿に「楽しそうだけどなんだろう？」という表情。「神様へ感謝してるセレモニーですよ」と説明。仏教行事が多く、信心深い子供たちもは直ぐに理解できたようです。

ラオスは仏教国で仏様や僧侶への敬意は日本とは比較にならない程の深さ。日本にも神仏がいてお寺があるということが分かればとても親近感を持ってもらえることでしょう。浦和のうなぎ、東松山の焼き鳥には「おいしいそう」とうっとりしていました。



埼玉は興味あるものだらけ

そして私が作った埼玉ガイドを見せました。「あれ！あれ！食べたい！」と興奮してたのが彩果の宝石のゼリー。特に女の子は目を輝かせていました。岩槻のひな人形や鎧兜には「ほしーい！」と。初めて見るダルマやこいのぼりには不思議そうに笑ってました。そして盛り上がったのがサッカー。浦和レッズの画像を見せると「うおー！」と大歓声。ラオスにもプロサッカーリーグがあって、特に男の子は休み時間になるとサッカーばかりしていますから日本のプロは憧れです。

最後に生徒を代表して5年生のバニーに感想を聞きました。

「埼玉どおだった？」
「美味しい食べ物があるのがいい！」
「どこにいちばん行きたい？」

「プール！」と東部動物公園の流れるプールに興味津々でした。将来は医者になるのが目標というバニー。いつか日本に留学に来れるよう応援しています。



サッカー大好きな男の子たち



「医者になりたい」5年生のバニー（中央）